

気象災害ハザードマッピング技術の開発

浦越拓野 福原隆彰 布川修 長谷川淳

土砂災害，強風災害，雪崩災害，落石災害を対象に，地表の傾斜などの災害素因，雨・風・雪といった気象外力（誘因），耐力・危険度評価結果を一元的に可視化できる気象災害ハザードマッピング技術を開発しました。

本手法では，まず地形情報として数値標高モデル（DEM）を準備します。次に，局地気象シミュレーションや気象統計に基づき，降水量や風速，積雪深等の外力を推定します。ついで，外力推定結果に基づき，各災害に関する耐力や危険度を評価します。この際，耐力・危険度評価において必要な情報の一部，たとえば斜面の傾斜を，DEMを用いた地形解析から得ることもできます。最後に，評価結果を線

路位置等とともに地理情報システム（GIS）上に，ハザードマップとして表示します。

本技術により，気象災害に関する線区の特徴の把握や弱

点箇所の抽出が容易となり，より効率的な防災対策の検討が可能となることが期待されます。

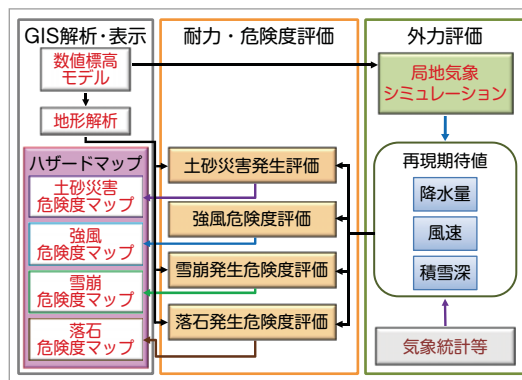


図 気象災害ハザードマッピング技術における情報処理の流れ